

中日両国の文化について
Concerning Culture in China and Japan

高橋弥守彦

TAKAHASHI Yasuhiko

内容提要: 中国有“天地”“男女”等“对称文化”，而日本有「三人寄れば文殊の知恵」「七人の侍」等使用奇数的“不对称文化”。汉语的基本句型为SPO，日语为SOP。因此，二者的关系按理说应该还是比较简单的。然而，受中国“对称文化”的影响，汉语中连述句和兼语句等的日译问题绝非简单，需要推敲。比如以下连述句。

但突然有一天，她接到一封电报。说他出差在外，不幸遇车祸。(『人民』96-11-85)

ある日、突然彼女宛に一通の電報が届いた。彼が出張先で交通事故に遭ったというのだ。(同上、96-11-84)

地道的日语并不是将以上的“出差在外”这一短语译成[出張中の外出先で]，而是要顺从日本的不对称文化翻译成[出張先で]。可以说将汉语的对称文化的句子译成日语时，往往是不对称的。这一点不容忽视。

キーワード: SPO 構造 SOP 構造 対の文化 非対の文化 リズム

目次

1. はじめに
 2. 中日両国の文化
 - 2.1. 類義する語句のくみあわせ
 - 2.2. 二単語の分解によるくみあわせ
 - 2.3. 連語のくみあわせ
 - 2.4. 構造的重複(実詞の繰り返し)
 - 2.5. 構造的重複(虚詞の繰り返し)
 - 2.6. 対比表現
 3. おわりに
- 言語資料
参考文献

1. はじめに

中国語の基本文型は SPO 構造“这是什么？”（『人民』93-11-111）であり、日本語は SOP 構造「これはなにかな？」（『人民』93-11-110）である。この基本文型を核にして、中国語はいろいろな文や分文構造“坐在教室里，我神情恍惚，眼前老是晃动着娘憔悴的身影。”（『人民』97-5-87）ができ、訳文「教室に座っているとポーッとして、いつも目の前におふくろの疲れた姿が浮かんでくる。」（『人民』97-5-86）も擬態語「ポーッ」を使うなどして、随分工夫が凝らされている。この基本文型から中国語の文がすべて作られているのであれば、中日両言語の対応関係は比較的簡単なのであろうが、実際の文はそれだけではない。

- (1) 一路上多多沉默寡言，他知道自己做错了事。（『人民』89-1-99）
歩きながら、多々はだまったままだ。自分が悪いことをしたのを知っていたからだ。（同上）
- (2) 后来老孙头给自己派了个活，每天早晨四点钟起床，把这条二百多米长的小胡同打扫得干干净净，然后回到院里，再把院子扫净。（『人民』88-5-90）
そのうち、孫老人はやることを自分で決めた。毎朝四時に起き、二百メートルの路地をきれいに掃いたら、庭に戻って中庭を清掃する。（同上）
- (3) 尽管还没出芽，没长叶，没开花。但一切都会有有的。（『人民』89-3-100~101）
まだ芽も、葉っぱも出ていないし、花も咲いていないけれど。それでも、みんな出てくるはずだ。（同上、89-3-101）
- (4) 苗苗的爸爸和妈妈，你瞪着我，我瞪着你，愣住了……（『人民』88-2-97）
パパとママは目を丸くして顔を見合せ、ぼかんとしている……（同上）
- (5) 他感到儿子匆匆搁筷，找衣服，又跨进卫生间。（『人民』88-8-99）
父親はそこそこにはしを置き（※くと）、洋服を取りに行く息子を心配で感じた。シャワーを浴びに行ったようだ。（同上、88-8-100）
- (6) 他感到心中自信像空气注入瘪汽球一样迅速饱满地回归。（『人民』88-8-101）
へこんだ気球が空気を入れられて膨らんでいくように、彼は自信が胸一杯にひろがっていくの感じた。（同上）

例(1)の原文の四字語“沉默寡言”は、動詞“沉默”[沈黙する、押し黙る]と形用詞“寡言”[口数が少ない、無口である]の類義語による重複である。訳文は「だまったままだ」と訳され、二つの類義語を使っていない。例(2)の“这条二百多米长”は、具体的な長さ“这条二百多米”と長さの分量“长”であり、やはり類義語の重複と言えるが、「二百メートル」と訳されている。例(3)の“没出芽，没长叶，没开花”は副詞“没”の重複であり、「芽も、葉っぱも出ていないし、花も咲いていない」と訳されている。言語環境により“没”が訳され、逐語訳的に“没”が三つすべて訳されているわけではない。例(4)の“你瞪着我”“我瞪着你”

は対比表現だが、訳文「目を丸くして顔を見合せ」は対比表現で訳されていない。例(5)の“他感到”は「父親は……感じた」と訳され、例(6)の“他感到”は「彼は……感じた」と訳されている。例(5)と(6)の原文は同一ミニ小説(《儿子的旋律》『息子の心情』)内にある同一表現だが、訳文は異なっている。

本稿では、単語レベルで対応関係にないこれらの原文と訳文とが、何を根拠にして翻訳として成立するのかに焦点を当てて分析する。

2. 中日両国の文化

現実を基本として、文はその地域に適した文化「人は右、車は左」(日本の交通規則)を作る。文には地域性のあるものもあれば、ないものもある。文化も文に影響を与える。文化は文にいったいどのような影響を与えるのだろうか。

中国には「対の文化」があり、日本には「非対の文化」¹⁾がある。「対」は円満や協調などを表すので、中国人から好まれている。中国語は、単語も単独で用いるより対にして用いると、意味が分かり易くリズムもよくなる。その典型が「四字語」である。「非対」は発展を表すので日本人から好まれている。その典型は「五七五の俳句」である。

2.1. 類義する語句のくみあわせ

中国語の文中にはしばしば類義語の重複がみられる。要旨中の“说他出差在外，不幸遇车祸”[彼が出張先で交通事故に遭ったというのだ]の“出差在外”は、[出張中の外出先で]と訳さず、[出張先で]と訳している。例(1)の“沉默寡言”も[沈黙して口数が少ない]と訳さず、[だまっただまだ]と訳している。一般的に言えば、中国語はこのように類義語を重複させているが、訳文の日本語は類義語を一つに統一している。中日両言語は、なぜこのような特徴ある表現をするのだろうか。例文を見て検討してみよう。

(7) 舅妈对姥姥极好，照顾得周到细致挑不出半点毛病。(『人民』91-1-96)

おばは祖母にとっても親切で、少しの欠点もないくらい、キメ細かに面倒を見てくれる。(同上)

(8) 那次之后，姥姥便再没有提她的绿玉手镯，舅妈伺候姥姥一如从前一样体贴细致，只是姥姥的神态中少了先前那种受之泰然的成份。(『人民』91-1-97)

それからは、祖母は二度と緑玉の腕輪のことを口にしなかった。おばも(※は)前と同じように、やさしく、かゆいところまで手の届くような世話をしてくれた。ただ、祖母の表情を見ていると、前にあった「モノがあるからよくしてくれているんだという安心感」が、いくらかでもなくなっていたようだった。(同上)

¹⁾ 高橋弥守彦(2017-p 42~54)に「対の文化」と「非対の文化」の詳細あり。

- (9) 但突然有一天，她接到一封电报。说他出差在外，不幸遇车祸。(『人民』96-11-85)

ある日、突然彼女宛に一通の電報が届いた。彼が出張先で交通事故に遭ったというのだ。(同上、96-11-84)

- (10) 上班到公司，发现科里的小郭有点闷闷不乐。(『人民』96-4-87)

会社に出ると、同僚の郭君が浮かない顔をしていた。(同上、96-4-86)

- (11) 有次，小洁出差不在家，阿浓邀了几个朋友来家小聚，似乎意在弥补什么。(『人民』94-1-93)

ある日、小潔が出張で家をあけた。阿濃は、なにがしかの埋め合わせにとばかりに、友達を数人よんでささやかな会をもよおした。(同上、94-1-92)

例(7)の“周到细致”は形容詞“周到”[行き届いている]と形容詞“细致”[きめ細かい、緻密である]のくみあわせであり、[キメ細かに]と訳されている。例(8)の“体贴细致”は動詞“体贴”[思いやる、気を配る]と形容詞“细致”のくみあわせであり、[やさしく、かゆいところまで手の届くような]と訳されている。例(7)(8)の四字語を見る限り、品詞によってくみあわせているのではなく、類義語と音節数とによってくみあわせている。これによって、意味が分かり易くリズムカルになっている。

例(9)の“出差在外”は動詞“出差”[出張する]と動詞“在外”[外にいる、よその土地にいる]とのくみあわせであり、[出張先で]と訳されている。例(10)の“上班到公司”は動詞“上班”[出勤する]と連語“到公司”[会社に到着する]のくみあわせであり、[会社に出ると]と訳されている。例(11)の“出差不在家”は動詞“出差”[出張する]と連語“不在家”[家にいない]のくみあわせであり、[出張で家をあけた]と訳されている。例(9)は単語のくみあわせであり、例(10)と(11)は単語と連語とのくみあわせである。文法単位によってくみあわせている場合もあれば、そうでない場合もあるが、いずれにしろ類義する意味を表す単語によってくみあわせている。また、訳出法は訳文から見ると、統一される場合“出差在外”[出張先で]とそうではない場合“出差不在家”[出張で家をあけた]とがある。これらをどう訳すかは、前後の言語環境を考慮して、日本語のリズムによって訳し分けをしなければならないようである。

上記下線部のくみあわせは、品詞や単語レベルのくみあわせであれば分かり易く、それにこしたことはないが、品詞や単語などの文法レベルのくみあわせだけでなく、類義する意味を表す単語によってくみあわせている。これらのくみあわせを見ると、中国語は意味が最重要視されていると言えそうである。これに慣れるためには、翻訳の理論を構築し経験を積む必要がある。

例(2)の“把这条二百多米长的小胡同打扫得干干净净”の“这条二百多米长”も、具体的な長さ“这条二百多米”と長さの分量“长”とのくみあわせであり、[二百メートル]と訳されて

いる。中国語はやはり類義語の重複、日本語は類義語の統一と言える。このことについては、このほかの具体的な数量を用いている文も、次で見よう。

(12) 大约十五六平方米的屋子里，摆一张双人床，一张单人床。一张占地不大的学生桌，桌上放着元元的课本和作业。(『人民』97-2-87)

十五、六平方メートルはあろうかという家の中は、ダブルベッドとシングルベッドがひとつずつ、それに小型の勉強机がところせましと置かれ、机の上には息子の元元の教科書とノートが積まれている。(同上、97-2-87)

例(12)の“大约十五六平方米”[十五、六平方メートルはあろうかという]は、[大体十五平方メートルはあろうかという]ともいえる。日本語はどちらかの表現になる。しかし、中国語のように、それらをまとめて[大体十五、六平方メートルはあろうかという]とはいえない。[大体]と[十五、六平方メートル]とがどちらも曖昧な表現になるからである。よく似ているが、ここには重複を好む中国語と重複を嫌う日本語の特徴があり、中日両言語における表現上の違いが見られる。

2.2. 二単語の分解によるくみあわせ

例(1)から(12)までは、類義する二つの語句のくみあわせだったが、以下の四字語は、二つの単語や類似の語句を分解してからのくみあわせである。中国語は語句のくみあわせも一種類だけではなさそうである。

(13) 一个身材瘦削的男青年正在招牌下伫立着往街道东张西望。(『人民』89-10-101)
やせた若い男がその下にじっと立って通りをあちこち見ている。(同上)

(14) 爹当村干部，整日东奔西跑为公家忙碌得顾不上家庭，弟妹又小，一家的重担都搁在娘肩上。(『人民』97-5-87)

親父は村の幹部で家は空けっぱなし。弟妹が小さいから一家の重荷が全部おふくろの肩に掛かっているのだ。(同上、97-5-86)

(15) 这可是名贵的花种呢，开了花要上百块一盆，请三托四好不容易弄到的，糟蹋不得。(『人民』89-3-100)

これは名花のタネなんだ、花がひらけば一鉢百元ほどの値打ちがある。それに、あちこち頼んでも、めったに手に入るものではないから、一粒たりともムダにはできなかったのだ。(同上)

例(13)の“东张西望”[あちこち見ている]は名詞“东西”[東西]と動詞“张望”[遠くを眺める、あたりを見まわす]、例(14)の“东奔西跑”は名詞“东西”[東西]と動詞“奔跑”[奔走する、走りまわる]のくみあわせだが、これらは単語を分解してからのくみあわせである。例(15)の“请三托四”は、例(13)(14)とはくみあわせが若干異なるものの、動詞“请托”[頼み込む、請託する]と回数“三四”とを分解してからのくみあわせである点では、同一とみなしてよいであろう。次の2例はまたくみあわせが異なる。

- (16) 于是父亲又穿得像模像样，每天按时上下班了。(『人民』94-10-97)
 こうして父親は、再び服装をととのえ、毎日時間通りに行き帰りするようになった。(同上、94-10-96)
- (17) 不过，咱先说点儿眼前的事。别没完没了的，趁早结婚吧。(『人民』94-10-97)
 だが、まずは目先の話をしよう。ごちゃごちゃ言わずに、早くカレと結婚することだ。(同上)

例(16)の“像模像样”[ちゃんとしている、まともである]と例(17)の“没完没了”[果てしがない、きりがない]とは、文中における用法が異なるものの、構造は同じである。四字語の中に、それぞれ単語“模様、完了”があり、四字語は成語“像模像样”“没完没了”として使われている。

2.3. 連語のくみあわせ

四字語は上記に見られるように、単語のくみあわせが一般的だが、以下のような類義する連語のくみあわせによっても作られている。これらのくみあわせは、単語であれ連語であれ、四字語になっているのが、その特徴である。

- (18) 她变得心灰意冷。(『人民』88-9-97)
 彼女はすっかり気落ちしてしまった。(同上)
- (19) 我心灰意疏，收拾了笔墨纸砚，打算与十年寒窗告别。娘说：“再试一年吧。”(『人民』97-5-87)
すっかり落ち込んだ僕は、勉強道具を片づけて、十年以上にわたった学校生活におさらばしようと思ったのだが、おふくろが「もう一年頑張れ」という。(同上、97-5-86)
- (20) 一声撕心裂肺的呼唤，“琴——”(『人民』88-9-98)
 「琴——」胸も張りさけるばかりの叫びがあがった。(同上)

例(18)の“心灰意冷”[すっかり気落ちする]と例(19)の“心灰意疏”[すっかり落ち込む]は、それぞれ名詞と形容詞とのくみあわせ“心灰”“意冷”と“心灰”“意疏”とである。例(20)の“撕心裂肺”[胸も張りさけるばかり、胸が引き裂かれる思いがする]は、どちらも動詞と名詞とのくみあわせ“撕心”“裂肺”であり、すでに成語“撕心裂肺”としても使われている。

このような四字語にすると、意味が分かり易くなるばかりだけでなく、リズムもよくなる。また例(19)の原文“打算与十年寒窗告别”と訳文[十年以上にわたった学校生活におさらばしようと思った]とでは、意味は若干異なるものの、これは誤訳ではなく、むしろ名訳といふべきだろう。一般には原文に沿って[十年にわたった学校生活におさらばしようと思った]と訳すだろう。翻訳の経験を積んでいなければ、現実には即してこれだけ訳せる訳者は、ほとんどいないだろう。

2.4. 構造的重複（実詞の繰り返し）

上掲のように、単語や連語を「対の文化」の影響を受ける四字語“沉默寡言”（例1）として使うと、中国語は意味が分かり易く、リズムがよくなる。四字語は、そのまま日本語に訳すと、冗漫〔沈黙して口数が数ない〕になる嫌いはあるが、非対の文化による訳〔だまったままだ〕にすると、分かり易く簡潔な日本語となる。

以下は構造的重複である。構造的重複（語句の繰り返し）は、2パターンに大別できる。下記のように、一つは二つの文や分文に用いるタイプ、もう一つは一つの文や分文内部に用いるタイプである。これらはいずれも類義語の重複と同様で、文意を分かり易く、リズムをよくしている。

- (21) 在一个黑色的木框里镶嵌着一张三寸黑白照片。照片是新的。（『人民』88-8-98~99）

黒い木枠に入った小さい白黒の写真があった。（同上、88-8-98）

- (22) 梁公是地区人大代表。人大代表是要开会的。（『人民』91-5-96）

彼は地区人民代表大会の代表である。代表は大会に参加する。（同上）

- (23) 他决定立即回去澄清事实。澄清事实的最有效的办法是再展示一件货真价实的作品，于是梁公选了一件真正的得意之作，匆匆忙忙赶回宾馆。（『人民』91-5-97）

彼はいますぐ戻って、事実をはっきりさせることにした。その最も有効な方法は、ほんものの作品をもう一度見せることだ。そこで梁公は、正真正銘の自慢の作を選び、大急ぎでホテルに戻っていった。（同上）

- (24) 照片上的人的微笑很健康很慈祥。照片上的人，是一位白发苍苍的老爷爷。（『人民』88-8-98）

その人の微笑は健康で慈愛に満ちていた。写真の人は、白髪のご老人だった。（同上、88-8-99）

- (25) 老二、老三也只是一刹那的惊愕。三双老手一同抹去两张脸上的泪，三双老手一同把两个跪着的人掀下了海，再同喊一声：“回去吧——鸽子。你们……”（『人民』93-4-111）

弟二人は一瞬はっとしたが、三人の老人の手はいっしょに動いて、若い二人の涙を拭ってやり、ひざまずいている二人を海に落とした。それからまた声を合わせて叫んだ。「帰って行きな——鸽子。お前たち……」（同上、93-4-110~111）

- (26) 娘锄地间苗，娘刷锅做饭，她缝衣补被，娘破冰浣洗……。（『人民』97-5-87）

畑仕事、炊事、針仕事、氷を割っての洗濯——（同上、97-5-86）

構造的重複は二つの文や分文に挙げる前者（例21, 24）が一番多いが、二つ以上の文や分文中に挙げる場合（例26）もある。前者の例として、例（21）から例（32）までの12

例が挙げられる。このうち例(21)から(26)までは体言性の語句であり、例(27)から例(32)までは用言性の語句である。例(33)は名詞“一辈子”、例(34)は副詞“有点儿”が状況語として用いられている珍しい文である。

上掲の例(21)(22)(23)は、二つの文の文末と文頭に同一の単語“照片”または連語“人大代表”“澄清事实”を用い、例(24)(25)は二つの文と分文の文頭“照片上的人”“三双老手”に、それぞれ連語を用いている。例(26)は五文字からなる四つの分文の文頭に“娘”を用い、あれこれやらなければならない仕事がたくさんある“娘”の忙しさを強調するとともに、文のリズムもよくしている。

(27) 娘看见了，爹和弟妹也看见了。(『人民』97-5-87)

みんなが目を見張った。(同上)

(28) 于是她满脸泪水地向他点头，使劲儿点头。(『人民』96-11-85)

彼女は溢れる涙を拭いもせず必死にうなずいて見せた。(同上、96-11-84)

(29) 亲爱的爸爸妈妈，我们回来了！亲爱的孩子，爸爸妈妈回来了！(『人民』15-1-78)

お父さん、お母さん、僕たちは帰ってきたよ。わが愛しき子どもたちよ、父さん、母さんが帰ってきたよ。(同上)

(30) 除夕之夜，大红的对联贴起来，喜庆的年华贴起来。(『人民』15-1-78)

大晦日の夜には、真っ赤な対聯や、めでたい年画が貼られる。(同上)

(31) 但他太爱小洁，不愿让小洁扫兴，不愿破坏那种温馨甜蜜的新婚气氛。(『人民』94-1-93)

だが彼は小潔をたいそう愛していたので、彼女を失望させたくなかった。このふんわかと蜜のような新婚気分を、壊したくはなかった。(同上、94-1-92)

(32) 父亲老了，他的一切都老了。曾和父亲这一辈很协调的背景已走向薄暮黄昏。(『人民』88-8-100)

めっきり老い込んだ父親、すべてが寄る年波に洗われてしまった。彼らの世代の黄昏を感じさせる。(同上)

例(27)から(32)までは、下線部の引いてある二つの分文中に、いずれも述語の重複“看见了”“回来了”“贴起来”“点头”“不愿”“老了”として、動詞“看见、点头、不愿”や動詞連語“回来、贴起来”および形容詞“老”などが用いられている。肯定形が多いが否定形(例31)もまれにある。次の二例は状況語の重複である。

(33) 为你一辈子正直无私，一辈子对信仰的忠诚。你尽力了。(『人民』88-8-100~101)

生涯通して、公明正大、マルクス主義信奉と忠誠を守ろうって頑張ってきたからさ。(同上、88-8-101)

(34) 她自己呢？依然是单身一人。28岁了，车间里的姑娘都说她有点儿怪，有点儿冷。

(『人民』96-11-85)

だが彼女自身はというと、依然として独身で、もう二十八歳だった。職場の小姑娘たちは、陰で彼女のことをどこか変わった、冷たい女だと噂した。(同上、96-11-84)

例(33)(34)は、二つの分文中に名詞“一辈子”と副詞“有点儿”が状況語として用いられている場合である。筆者の調査によれば、名詞や副詞が重複する語句として状況語に用いられる場合はきわめて少ない。以下の3例は、下線部で示す名詞連語のカザリやカザラレが重複する場合である。

(35) 沁沁有了一盆属于自己的花，亲手种的花！（『人民』89-3-100）

自分の花を手にしたシンシン。それも、自分の手で植えた花なのだ。(同上、89-3-101)

(36) 满足的笑，苍老的笑，豪迈的笑！——风暴淹不住，雷霆盖不住，海浪埋不住！（『人民』93-4-111）

老いた三人の、満足しきった笑い、枯れた笑い、豪邁な笑い！それは暴風にも、雷にも、怒涛にもおさえられはしなかった！（同上）

(37) 史工程师比当年自己考取大学要高兴得多，满脸的阳光，满脸的春色。（『人民』97-10-75）

エンジニアの史さんは、自分が大学に受かったときよりも嬉しかった。その喜びようはまさに喜色满面、春色满面とってよかろう。(同上、97-10-74)

語句の重複を一つの文や分文内部に用いるタイプとして、上掲の三例が挙げられる。例(35)(36)は名詞連語のカザラレ(中心語)として、それぞれ名詞“花”と動詞“笑”²⁾を重複させている。例(37)は名詞連語のカザリ(限定語)として語句“满脸的”を重複させている。これにより、文意が分かり易くリズムがよくなっている。以下の文のように、二つの文や連語の文頭に用いられる場合もある。これらはいずれも文意を分かり易くリズムをよくする機能がある。

(38) 照片上的人的微笑很健康很慈祥。照片上的人，是一位白发苍苍的老爷爷。（『人民』88-8-99）

その人の微笑は健康で慈愛に満ちていた。写真の人は白髪のご老人だった。(同上、88-8-99)

²⁾ 名詞連語は「カザリ+“的”+カザラレ」構造で、カザラレには一般に名詞や名詞連語が用いられる。そのため名詞連語と言う。しかし、カザラレの位置に動詞や形容詞が来る場合もある。動詞や形容詞はカザラレの位置に用いられることにより、体言的な意味が加味される。これにより、名詞連語の機能が加味される。

- (39) 老二、老三也只是一刹那的惊愕。三双老手一同抹去两张脸上的泪，三双老手一同把两个跪着的人掀下了海，再同喊一声：“回去吧——鸽子。你们……”（『人民』93-4-111）

弟二人は一瞬はっとしたが、三人の老人の手はいっしょに動いて、若い二人の涙を拭ってやり、ひざまずいている二人を海に落とした。それからまた声を合わせて叫んだ。「帰って行きな——鸽子。お前たち……」（同上、93-4-110～111）

- (40) 他放心不下嘱托给她的，是他那刚刚出世不久的儿子！还有那刚刚做了母亲的妻……（『人民』96-11-85）

彼が心配のあまり彼女に頼んだのは、生まれて間もない赤ん坊と、母親になったばかりの妻だったのだ……（同上）

- (41) 在一个黑色的木框里镶嵌着一张三寸黑白照片。照片是新的。（『人民』88-8-98～99）

黒い木枠に入った小さい白黒の写真があった。（同上、88-8-98）

- (42) 梁公是地区人大代表。人大代表是要开会的。（『人民』91-5-96）

彼は地区人民代表大会の代表である。代表は大会に参加する。（同上）

例(38)(39)(40)は語句の重複であり、文中にさほど難しい語句があるわけではない。しかし、二つの文で表現することにより、意味的な対比(例38は同一人物に対する異なる角度からの描写、例39は若い二人に対する同一の行為、例40は赤ん坊と妻)を作り、文意を分かり易く、リズムをよくしている。例(41)(42)は文末と文頭に用いる語句の重複であり、いずれも重複することにより、文意を分かり易く、リズムをよくしている。しかし、訳文はそれらをすべて訳すと、冗漫になる嫌いがあるので、工夫を凝らして重複を避けている。

2.5. 構造的重複（虚詞の繰り返し）

虚詞を繰り返す構造的重複も、文意を分かり易くリズムをよくする機能が含まれている。以下の実例がそれにあたる。虚詞には肯定的意味を含む単語と否定的意味を表す単語とがある。

- (43) 她又想不看，又忍不住偷偷地看。（『人民』89-6-100）

見るまいと思っても、ついついおさえ切れずに見てしまう。（同上）

- (44) 每一声车鸣，带来一串又一串欢快的笑声，涌动着又一阵又一阵暖暖的亲情！（『人民』

15-1-78）

車の到着を告げる音と共に、歓喜の笑い声と温かな肉親の情がひとつ、またひとつと湧き起こる。（同上）

(45) 等朋友走后, 阿浓又是扫又是拖, 还用吸尘器, 折腾了好一阵, 才把所有的痕迹清扫干净。(『人民』94-1-93)

彼らが帰ったあと、阿濃はほうきではき、モップで床をふき、掃除機も使った。何度も繰り返したおかげで、部屋はすっかりきれいになった。(同上、94-1-92~93)

(46) 在一根头发丝上刻一首诗, 且配画, 且笔力道劲, 且画境隽永。(『人民』91-5-96)

一本の髪の毛に詩を一首彫って、そこに絵を配す。しかも力強さが感じられ、画境には深い意味がある。(同上)

例(43)から(46)までの構造的重複に使われている虚詞“又…又…、又…又…还…才…、且…且…且…”は、どの虚詞も肯定的意味を表している。一般には現実の多少により、肯定的意味を表す虚詞のほうが多く使われている。これらの虚詞を使うことにより、文構造が明確になり、文意が分かり易く、リズムがよくなっている。たとえば、例(43)の“她又想不看, 又忍不住偷偷地看”は虚詞“又…又…”³⁾を使うことにより、前後の分文内の意味関係[見るまいと思っても、ついついおさえ切れずに見てしまう]が明らかになっている。構造的重複に使われている虚詞は2つの場合が多く、3つ(例46)や4つ(例45)の場合はさほど多くない。また、例(45)に用いている虚詞は同一の虚詞だけではない。以下は否定的意味を含む虚詞が構造的重複に使われている場合である。

(47) 尽管还没出芽, 没长叶, 没开花。但一切都会有的。(『人民』89-3-100~101)

まだ芽も、葉っぱも出ていないし、花も咲いていないけれど。それでも、みんな出てくるはずだ。(同上、89-3-101)

(48) 安安独自一人, 没有家底, 到了说媳妇的年龄, 却没有人与他说合。(『人民』89-7-99)

安安はひとりぼっち、財産などはない、嫁の話が出る年齢になったが、誰も世話をしてくれない。(同上)

(49) 父亲没有在这稍纵即逝的惊讶里看到别的什么。没有怜悯没有安慰也没有懊恼。(『人民』88-8-99)

でも、いましがた見せたいぶかしい表情は、もう消えていた。いまは何の表情もない。哀れみも思いやりも苦悩の色も。(同上)

(50) 你大了不再崇拜父亲。你越来越沉默, 你不再抱怨父亲呆板僵化, 不再为各种政治问题与父亲争论不休, 也不再说什么刚愎自用。(『人民』88-8-99~100)

³⁾ “又…又…”は《汉语800虚词用法辞典》(2013-p.789~790)に矛盾する2項を表すとして、次の例文を含む10例が挙げられている。

他又想买, 又觉得有点儿贵。／彼は買いたいが、ちょっと高いと思う。(筆者訳)

大きくなったら、父親を尊敬することもなくなったし、一層黙り込むようになった。無愛想な、しかめっ面したわしにヘソをまげることもない。政談を戦わすこともない。親父は強情っ張りで、自信家だとも言わなくなった。(同上、88-8-100)

- (51) 像候鳥一样，在外的儿女都回到了家乡。无论路途远近，无论寒风细雨，更无论富贵与否。(『人民』15-1-78)

渡り鳥と同じように、外に住む子どもたちはみんなふるさとに戻ってくる。どれほど遠くにいようが、どれほど悪天候であろうが、ましてやお金のあるなしにかかわらず。(同上)

例(47)から(51)までの構造的重複に使われている虚詞“没…没…没…、没有…没有…、没有…没有…也没有…、不再…不再…也不再…、无论…无论…更无论…”は、否定的意味を含む虚詞である。これらの虚詞を使うことによって、複雑な文構造が整理され明確になり、文意が分かり易く、リズムがよくなっている。

2.6. 対比表現

「対の文化」の影響を受ける言語表現としては対比表現も挙げられる。対比表現で多いのは、以下の文に見られるような1対1の対比である。これを「非対の文化」による訳文とするためには、どのように訳せばよいのだろうか。まず、文成分内部の対比表現から見ていこう。

- (52) 别看他呆憨，他那厚嘴唇，那呆滞眼，就像一本书，一本写着“老实”二字的书，只要一看，就能读懂。(『人民』89-1-101)

彼をおろか者と思ってはいけない。あの厚い唇と動きの少ない目は、「マジメ」の三字を印刷したパンフレットのように、ひと目でそれとわかるのだから。(同上)

- (53) 沁沁的眼睛闪过希望又闪过失望。(『人民』89-3-101)

期待に輝く眼、失望にくれる眼。(同上)

- (54) 父亲的咆哮，母亲的怒吼，她一概不听。(『人民』91-2-97)

父も母もどなったが、彼女は聞き入れようとしない。(同上)

例(52)の下線部“那厚嘴唇，那呆滞眼”[あの厚い唇と動きの少ない目は]は、主語の一部が対比表現であり、訳もその対比表現となっている。意味が分かり易くリズムカルである。例(53)の下線部“闪过希望又闪过失望”[期待に輝く眼、失望にくれる眼]は、述語が対比表現であり、訳文も対比表現で訳に工夫が凝らされている。例(54)の“父亲的咆哮，母亲的怒吼”[父も母もどなったが]は、客語を前置して強調する対比表現と言えるが、訳は対比となっていない。例(54)の対の文化による中国語の対比表現“父亲的咆哮，母亲的怒吼，她一概不听”は、非対の文化による訳文[父も母もどなったが、彼女は聞き入れよ

うとしない] で表現されている。原文も訳文も優れている、といえる。次に分文の対比を見よう。

- (55) 苗苗の爸爸和妈妈，你瞪着我，我瞪着你，愣住了……（『人民』88-2-97）
パパとママは目を丸くして顔を見合せ、ぼかんとしている……（同上）
- (56) 父亲凝视儿子的眼睛，儿子也凝视着父亲。（『人民』88-8-100）
父親は息子の眼をとらえ、息子も父親を凝視している。（同上、88-8-101）
- (57) 在一个刚做母亲就失去了丈夫的人面前，在一个刚做儿子就失去了父亲的人面前，她不再是娇弱的牵牛花，而变成一棵树。（『人民』96-11-85）
母親になったばかりで夫を亡くした女性の前で、生まれてすぐ父親を失った赤ん坊の前で、彼女はこれまでの弱々しい朝顔ではなく、たくましい樹に変わっていたのだ。（同上）
- (58) 阿根舍命从船舷上抢到仅剩的两个救生圈：一个塞给鸽子，一个给鸽子爷。（『人民』93-4-111）
阿根が危険をおかして船べりに残った二つの救命ブイを引きちぎった。一つを鸽子にかぶせ、一つを鸽子の爺さんに渡す。（同上、93-4-110）
- (59) 从此，安安吃百家饭，穿百家衣，渐渐长大了。（『人民』89-7-98）
それからの安安は、村人の情けにすがって、「百家の飯を食べ、百家の衣を着て」だんだん大きくなった。（同上、89-7-99）
- (60) 直到她结婚。直到她再嫁。（『人民』96-11-85）
彼女が結婚するまで。彼女が再婚するまで。（同上）
- (61) 种子哪来的呢？风儿带来？鸟儿衔来？又怎么刚巧落到这盆里的？（『人民』89-3-102）
タネはどこから来たのだろうか。風が運んで来たのか、それとも、鳥がくわえて来たのか。それにしても、うまくこの鉢に落ちたのは？（同上）
- (62) 他放心不下嘱托给她，是他那刚刚出世不久的儿子！还有那刚刚做了母亲的妻……（『人民』96-11-85）
彼が心配のあまり彼女に頼んだのは、生まれて間もない赤ん坊と、母親になったばかりの妻だったのだ……（同上）

例 (55) から (62) までの下線部は、いずれも対比表現である。このうちの例 (55) から (59) までは分文で作る対比表現、(60) (61) は文で作る対比表現、(62) は分文と文で作る対比表現である。対比表現にもいろいろな構造があるが、分文で作る対比表現が一番多い。

例 (55) (56) の中国語は、対比表現“你瞪着我，我瞪着你”“父亲凝视儿子的眼睛，儿子也凝视着父亲”であり、訳文は前者が非対の文化の影響を受ける言語表現 [目を丸くして

顔を見合せ]、後者は訳文も対比表現「父親は息子の眼をとらえ、息子も父親を凝視している」である。これを非対の文化の影響を受ける言語で表現するには「父親と息子はお互いに凝視している」と訳せばよいだろう。しかし、これまでは文化面から分析する観点がなかったため、対比表現で訳す例(56)のような日本語も、例(54)のような訳文があったにもかかわらず、ほとんどが対比表現のまま訳されている。例(57)(58)も分文で作る対比表現「在一个刚做母亲就失去了丈夫的人面前，在一个刚做儿子就失去了父亲的人面前」「一个塞给鸽子，一个给鸽子爷」であり、訳文もともに対比表現「母親になったばかりで夫を亡くした女性の前で、生まれてすぐ父親を失った赤ん坊の前で」[一つは鸽子にかぶせ、一つは鸽子の爺さんに渡す]で表現されている。例(59)も原文「吃百家饭，穿百家衣」も訳文「百家の飯を食べ、百家の衣を着て」も対比表現である。これらの中日両言語の文を見ると、原文の対比表現を一般の非対の文で訳すのが、いかに難しいかが容易に理解できる。以下は文で作る対比表現である。

例(60)(61)の対比表現「直到她结婚。直到她再嫁」「风儿带来？鸟儿衔来？」の訳文は、文「彼女が結婚するまで。彼女が再婚するまで」と分文「風が運んで来たのか、それとも、鳥がくわえてきたのか」で作る対比表現で訳されている。例(62)の原文「是他那刚刚出世不久的儿子！还有那刚刚做了母亲的妻……」も訳文「生まれて間もない赤ん坊と、母親になったばかりの妻だったのだ……」も対比表現である。

以下の文は複数項目の対比である。複数の対比は1対1の対比に比べると、ごくわずかなが、現実があれば項目が複数の対比も作れる。

(63) 老二、老三也只是一刹那的惊愕。三双老手一同抹去两张脸上的泪，三双老手一同把两个跪着的人掀下了海，再同喊一声：“回去吧——鸽子。你们……”（『人民』93-4-111）

弟二人は一瞬はっとしたが、三人の老人の手はいっしょに動いて、若い二人の涙を拭ってやり、ひざまずいている二人を海に落とした。それからまた声を合わせて叫んだ。「帰って行きな——鸽子。お前たち……」（同上、93-4-110~111）

(64) 船舱里三个年迈的渔夫铁青着脸，无声地抽烟；阿根和鸽子坐在船板上，互相用眼睛传递着惶惑。（『人民』93-4-111）

船室では三人の老いた漁師が青黒い顔をして黙々とタバコを吸っている。阿根と鸽子は船板に腰かけて不安の目を見かわしている。（同上、93-4-110）

例(63)の「三双老手一同抹去两张脸上的泪，三双老手一同把两个跪着的人掀下了海」[三人の老人の手はいっしょに動いて、若い二人の涙を拭ってやり、ひざまずいている二人を海に落とした]も、例(64)の「船舱里三个年迈的渔夫铁青着脸，无声地抽烟；阿根和鸽子坐在船板上，互相用眼睛传递着惶惑」[船室では三人の老いた漁師が青黒い顔をして黙々と

タバコを吸っている。阿根と鴿子は船板に腰かけて不安の目を見かわしている]も、若者に対する老人の行為である。

対比表現は2項目の1対1あるいは複数対複数の場合が多いが、現実があれば、次の文のように、3項目の対比も作れる。

(65) 风儿吹过，雨儿洒过，霞光染过，终于，抽出了一朵小花，淡黄的，泛着柔嫩的微光，还招来一只蜂儿，嗡嗡地唱着歌。(『人民』89-3-102)

風が吹き、雨にぬれ、霞に染まり、やっと小さな花がひとつ出てきた。淡黄色で、やわらかく淡い光を放っている。それに誘われて飛んで来たハチが一匹、「ブーン、ブーン」と歌を歌っている。(同上)

(66) 满足的笑，苍老的笑，豪迈的笑！——风暴淹不住，雷霆盖不住，海浪埋不住！
(『人民』93-4-111)

老いた三人の、満足しきった笑い、枯れた笑い、豪邁な笑い！それは暴風にも、雷にも、怒涛にもおさえられはしなかった！(同上)

例(65)の“风儿吹过，雨儿洒过，霞光染过”[風が吹き、雨にぬれ、霞に染まり]は三項目の対比である。例(66)の“满足的笑，苍老的笑，豪迈的笑”[老いた三人の、満足しきった笑い、枯れた笑い、豪邁な笑い]と“风暴淹不住，雷霆盖不住，海浪埋不住”[それは暴風にも、雷にも、怒涛にもおさえられはしなかった]も三項目の対比である。ただし、三項目以上の対比になるとかなり少なくなる。

対比表現は二項目の対比が圧倒的に多く、三項目以上の対比になるとずっと少なくなる。また、二項目の対比は、非対の文化による言語表現でも、例(54)(55)のように工夫をすれば、対比表現より、いっそう日本語の特徴を出した日本語らしい文で訳せる。しかし、三項目の対比は項目が三つあるので、非対の文化による言語表現で訳せないこともないが(例66の後半の三項目)、相当訳し難い(例65、例66の後半の三項目)。中国語も三項目以上の対比表現になるといっそう少なくなるし、非対の文化による訳もいっそう難しくなるので、一般には対比表現で訳されている。

3. おわりに

中国には「対の文化」があり、日本には「非対の文化」がある。これは文化面における中日両国の大きな違いである。歌舞伎や能などの日本の伝統劇は、中国の京劇や昆劇などの影響を強く受けているが、両者には違いがある。これら中日両国の文化の違いは、両国の伝統劇を見れば誰にでも分かるが、聞いただけでも両者には大きな違いがある。原則として、中国の伝統劇は歌うが、日本の伝統劇が歌わない。この点が決定的に違うところである。中国語は言語自体に声調があり、リズムがあるので、言語が歌いやすくできているのであろう。

中国語の基本文型は SPO 構造、日本語は SOP 構造である。中日両言語の文構造がこれだけであれば、両言語には構造的な対応関係が認められるので、翻訳はさほど難しくないだろう。しかし、中国語には対の文化の影響を受けた単語“学习”や四字語“沉默寡言”などが相当数ある。文にも連述文や兼語文などがあり、それに対比文もある。これらは非対の文化による日本語の構造とはかなり違うので、日本語らしい日本語に訳すには、言語事実に基づいて、両言語を分析した科学的な両言語に関する高度な翻訳のテクニックが必要となる。

対の文化と非対の文化が中日両国の言語に及ぼした事実関係を調査し、実例による言語事実に基づいて、両者の関係を明らかにし、それを認め、考慮に入れ科学的に翻訳していかなければならないだろう。次の文の下線部は両者の関係の一端がよく現れているところである。

(67) 挑了个没有课的下午，大家一起骑车去市里的体育用品商店，这里的球衫式样可真不少，花色也多，可麻烦也跟着来了。(『人民』89-8-101)

午後授業のない日を選んで、みなは自転車でいっしょに市内のスポーツ用品店へ行った。この店の品数の多いこと、色もとりどり、却ってめんどうになってきた。(同上)

例(67)の“大家一起骑车去市里的体育用品商店”は、[みなは自転車でいっしょに市内のスポーツ用品店へ行った]と訳されている。“一起骑车去市里的体育用品商店”を[みなは自転車に乗っていっしょに市内のスポーツ用品店に行った] (筆者訳)と訳していない。筆者訳[自転車に乗って……市内のスポーツ用品店に行った]は、対の文化の影響を受けた中国語の連動文にそって訳され、やや冗漫になっている。また、さほど長くない文に「に」を3回も使ってあるので歯切れも悪い。

対の文化を受けた中国語は、非対の文化の影響を受ける日本語に訳せれば、それでよいが、対の文化の影響を受けた中国語は、日本語と文構造がかなり違う場合もあるので、そう簡単には訳せないだろう。中国語の文によっては日本語にうまく訳せない場合も恐らくでてくるだろう。その場合はやむを得ないので、対の文化の影響を受けた日本語でもよいだろうが、重複表現は冗漫になりリズムが悪くなる傾向があるので、なるべく避けた方がいだろう。

言語資料

1. 『人民中国』ショートショート 人民中国雑誌社 1988～1997
2. 『人民中国』楽しく対訳 人民中国雑誌社 2014～2017
3. 『人民中国』ショートショート 人民中国雑誌社 2018～

参考文献

日本語文献

1. 荒川清秀 (2015) 『動詞を中心にした中国語文法論集』 白帝社
2. 鈴木康之 (2000) 『日本語学の常識』 海山文化研究所
3. ——— (2011) 『現代日本語の連語論』 日本語文法研究会
4. 朱徳熙著 杉村博文・木村英樹訳 (1995) 『文法講義』 白帝社
5. 高橋弥守彦 (2006) 『実用詳解中国語文法』 郁文堂
6. ——— (2017) 『中日対照言語学概論—その発想と表現—』 日本僑報社
7. ——— (2020) 『中日翻译学的基础与构思—从共生到共创』 外语教学与研究出版社
8. ——— (2023) 『日中中日翻訳必携実戦編V』 日本僑報社
9. 松村達夫 (1978) 『翻訳の論理 英語から日本語へ』 玉川大学出版部
10. 丸尾誠 (2014) 『現代中国語方向補語の研究』 白帝社
11. 李臨定著／宮田一郎訳 (1993) 『中国語文法概論』 光生館

中国語文献

1. 丁崇明 (2009) 《现代汉语语法教程》 北京大学出版社
2. 樊平 刘希明 田善继 编 (1988) 《现代汉语进修教程 语法篇》 北京语言学院出版社
3. 房玉清 (2008) 《实用汉语语法》 北京语言大学出版社 《实用》
4. 耿二岭 (2010) 《汉语语法》 北京语言大学出版社
5. 李宝贵 (2005) 《语法精讲与自测》 北京大学出版社
6. 梁鸿雁 (2004) 《HSK 应试语法》 北京大学出版社
7. 卢福波 (2011) 《对外汉语教学实用语法》 北京语言大学出版社
8. 陆庆和 (2006) 《实用对外汉语教学语法》 北京大学出版社
9. 单宝顺 (2011) 《现代汉语处所宾语研究》 中社会科学出版社
10. 徐昌火 (2005) 《征服 HSK 汉语语法》 北京大学出版社
11. 杨德峰 (2004) 《汉语的结构和句子研究》 教育科学出版社